

2学期スタート！



2学期始業式 校長講話

今年新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2週間という短い期間での夏休みとなりました。8月の梅雨明けから一転、毎日厳しい暑さが続きましたが、大きな事故やけがの報告がなく安心しました。休み中のご配慮ありがとうございました。

新学期、元気な子どもたちの姿が学校に戻ってきました。8/19（水）の始業式では、校長先生から、熱中症や新型コロナウイルス感染症に注意しながら、今後も換気や手洗い、マスク着用、健康チェックを続けていくようお話があり、特に感染を予防していくために「手洗いの6つのタイミング」について紹介がありました。また、2学期の目標として、2つのことを念頭に1日1日を大事に過ごしてくださいとのお願いがありました。

①「じっくり学習」（授業中は、考える時間を大切に、家庭学習では自分から進んで）

②「自分や友だちを大事に」（コロナ対策は守ることが当たり前、友だちの時間をうばわないために時間を守る、人がいやがることは自分もいやなこと絶対にしない）

2学期もコロナ禍の中で様々なことで、ご理解やご協力をいただくことが多くなることと思います。引き続き宜しくお願いいたします。

今年度もVS活動に取り組んでいます

豊洲小は、長野県青少年赤十字に加盟し、VS（ボランティアサービス）活動に取り組んでいます。子どもたちの自主性を引き出すために、自分以外の人のために今の自分にできることはないかを考え、自分ができることを進んで行う活動をします。夏休み明け8月21日（金）朝の活動の時間を利用し、クラスや個々で活動を考えVS活動に取り組みました。校庭の草取りをしたり、廊下や壁の汚れを落としたり、昇降口や玄関ホールの掃除をしたり、それぞれの気づきを大切にしながら活動することができました。今度も月1回のペースでVS活動に取り組んでいきます。活動を通して人を思う優しさや思いやりの心、主体性などを身につけてほしいと思います。



3年生 床の汚れ落としの様子

☆PTA活動より

○8月22日（土）に行われたPTA作業では、多くの皆様にご参加いただき、校舎内外を整備いただきました。早朝よりご協力ありがとうございました。その後行われたおやじの会の作業では、雨天時に校庭がぬかるみやすい場所に土を入れてならしていただきました。今年度は作業が終わった後の懇親会を中止としましたが、毎年、年1回の作業と懇親会となっていますので、大勢のお父さん方にご参加いただき、会を盛り上げていただければ幸いです。



8月22日（土）PTA作業

☆お知らせとお願い

- 毎日の新型コロナウイルスへの感染防止対応、誠にありがとうございます。全国的に感染拡大の歯止めが効かない状況となっています。引き続き、不要不急の外出は避け、朝晩の検温と健康チェックを宜しくお願いいたします。体調不良の場合は、登校に十分配慮してください。また、残暑が厳しく熱中症にも配慮をしていく必要があります。学校では、睡眠や栄養、水分を十分にとること、人との十分な距離があるときはマスクを取って良いことなどを繰り返し指導しています。ご家庭でもお声がけを宜しくお願いいたします。
- 校内音楽会について、名称を「器楽合奏発表会」とし、個人持ちの楽器を中心とした発表会とすることにしました。発表時間を低学年・高学年に分け、分散型で実施いたします。実施日は、年間行事予定通り10月22日（木）AMとなります。

☆地域の皆様へ（タイムカプセル開封実行委員会より）

• 開校百周年で記念授業で埋めたタイムカプセルの開封が2020年になっていました。11月22日（日）を予定し、実行委員会を立ち上げて準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、大勢の皆様にご参加いただき開封式を実施することは困難であると判断し、翌年以降に延期させていただくことにしました。タイムカプセルを埋めた世代の方でお知り合いの方がいらっしゃいましたら、その旨、是非ともお知らせいただきますようお願いいたします。

☆子どもたちの「学びの保障」に向けたアンケートについて

1学期に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中で、第2波、第3波が予想され、学校が再び臨時休業となる可能性があることから4月・5月の臨時休業中の取り組みを検証し、子どもたちの「学びを保障」するための準備としてアンケートを実施させていただきました。ご協力ありがとうございました。以下アンケート結果・考察ならびに今後の方向についてお知らせいたします。

○アンケート結果 ◇考察

①臨時休業中は、自ら計画を立てて学習を進められましたか。(児童)

お子さんは、自ら計画を立てて学習を進めていましたか。(保護者)

自ら計画を立てて学習を進められるよう工夫しましたか。(職員)

	児童	保護者	職員
はい	84.3%	40.4%	100%
いいえ	11.7%	59.6%	0%

◇児童・職員の意識と保護者の意識では大きく異なります。子どもや職員は、自ら計画を立てて進めた(進められるようにした)とする一方で、保護者の方の6割はそう感じていないという結果でした。児童は自分で計画を立て学習を進めたという意識ですが、ご家庭でお子さんが計画を立てるためにたくさんご支援があったことが予想されます。

②学校から出された家庭学習の量はちょうどよい量でしたか。(児童)

学校から出された家庭学習の量はちょうどよい量でしたか。(保護者)

家庭学習について適当な量を課しましたか。(職員)

	児童	保護者	職員
はい	62.5%	68.1%	100%
いいえ	37.5%	31.9%	0%

◇児童・保護者に大きな意識の違いが見られませんでした。職員は、適量と考え家庭学習を出したつもりでも児童や保護者の方によって受け取りは様々で、「いいえ」と回答した中には「多い」と感じた児童・保護者がいる一方で、「もの足りない、もっと多くてもよかった」とコメント欄に書く方もいました。

③ICT機器等を使った家庭学習に意欲を持って取り組みましたか。(児童)

ICT機器等を使った家庭学習に意欲を持って取り組んでいましたか。(保護者)

ICT機器等を用いた家庭学習で意欲を持てるように工夫しましたか。(職員)

	児童	保護者	職員
はい	75.7%	34.8%	66.7%
いいえ	24.3%	65.2%	33.3%

◇職員はICT機器を活用した学習として、eライブラリーやNHKのEテレ、自主学習サイト等の紹介を行いました。児童は保護者の方からスマホやタブレット、パソコンを借りながら学習に取り組んだり、Eテレを視聴したりしたようです。一方、保護者の方は、留守中にタブレットやパソコンを使用することの危険性や幾人も兄弟姉妹がいると全員に対応できない、スマホには月々の使用量制限があるなど、不安や活用しにくさを感じている方が多くいました。

○今後の方向

①本校の強みとして

- 出された課題をしっかりと取り組もうとする児童が多い。ご家庭も忙しい中で、宿題をよく見てくださっている。
- お便りで推奨した「Eテレ」「eライブラリー」等の学習をやってみようとする児童がいる。また、それに応えてくれる家庭がある。【「eライブラリー」については、授業で使い方(コンテンツの紹介、ログインの方法や学習の進め方、保存の方法)などを扱い、全児童が一人でも利用できる状態にできている学級は、利用率が高くなっている。】

②本校の課題として

- ICT活用環境が整っていない家庭が多い。(屋間の保護者不在、台数制限)子どもだけでのICT活用を危惧する声がある。
- 学校では、授業で課題把握・学習の見通しをもたせてから、家庭学習につなげているつもりであるが、児童自身が課題を理解しきれていなかったり、そのやり方がご家庭に周知できていなかったりで、自律的な学習を目指して課した家庭学習を負担に感じる児童・保護者も多かった。

③課題を補い、強みを伸ばしていく具体的方策

【家庭学習と授業の関連および家庭学習の方向】

- 児童に対しては、授業で、課題を把握し、学習の見通しをもたせてから、家庭学習に入れるようにする。家庭に対しては、家庭学習と授業が関連した学習のイメージをお便り等で伝える。出した家庭学習への説明を丁寧に行っていく。
- 予習的な学習、自己課題解決型の学習・自由進度学習を推進し、多様な学習環境の準備をし、自律的・個別的に学べる工夫をしていく。(いろいろなメディア・資料・学習材・場所を用意する)
- 授業中に個人追究の課題を提示して家庭学習につなげるとか予習的に取り組んだことをもとに授業で追究する等、授業と家庭学習をつなげる取組を試行する。
- 今後臨時休業に入った場合の家庭学習として出される課題は授業の代替えであり、習っていない予習的な内容も自学として進める場合があることや日中の生活計画と学習計画を関連させて立てさせ、習慣化できるように指導する。

【児童のICT利用】

- 「eライブラリー」の毎月の利用状況や、「Eテレ」の今月のオススメ番組を伝えることを継続していく。また、授業でタブレットの使い方を学び、児童自身が一人でもできるという自信をもてるようにしたり、その学習の面白さや効果を実感したりすることで、家庭学習におけるeライブラリーをはじめとするICT機器を利用した学習に意欲がもてるようにする。その上で、保護者に協力を求めるようにする。
- 「eライブラリー」による習熟や個別に調べ学習に取り組む等、児童がタブレットに触れる機会を増やしていく。

【職員の研修】

- 職員によるデジタル教科書の更なる活用及び積極的なタブレット使用を促す。
- zoom等を活用してのオンライン会議やタブレット活用研修の実施を進める。
- 長期休みや臨時休業中だけでなく、日常的に、課題の量や自分の予定に応じて、計画的に学習する・生活する習慣を付けていく。計画の立て方は学校で指導し、週末に実践し習慣化していく。自分の課題(弱点)を自覚し、内容を選択・実行していける個々に応じた自主学習を工夫していく。

④具体的方策の見直し

- 職員に月ごとデジタル教科書やタブレットの活用状況、家庭学習の取組等の調査を実施し、自己の指導の振り返りを行うことで翌月の指導に生かす。
- 月1回の連学年マネージメント会議の際に議題として取り上げ、その月の振り返りと見直しを行う。
- 職員研修で週末の家庭学習の出し方を共有し、有効な自主学習の方法を検討していく。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならでの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一